

名原会ニュース

令和4年 11月17日

○ 特別寄稿	1
学科・専攻の最近の新しい取り組みの紹介	尾上 順
昇任のご挨拶	山田 智明
○ 活動報告	4
卒業生との集い	
原子力オープンスクール	
○ 教室の近況	4
職員の異動	
○ 研究室便り	5
○ 会員の声	13
名原会（元）幹事のつぶやき	森泉 純
客員教員着任のご挨拶	中野 治久
着任のご挨拶	高島 舞
近況報告①	小迫 誠弥
福島での研究生活	佐々木 美雪
近況報告②	寺阪 祐太
○ 核院会便り	20
○ お知らせ	21
名原会ニュース印刷・発送廃止のご連絡／会則変更に伴う会費納入廃止のお知らせ／各種証明書の請求について／名簿記載内容の変更・訂正／宛名ラベルの提供／ニュース掲載記事募集／名原会ホームページURL 変更のお知らせ／個人情報の取扱について	
○ 会計報告	23
○ 編集後記	23

特別寄稿

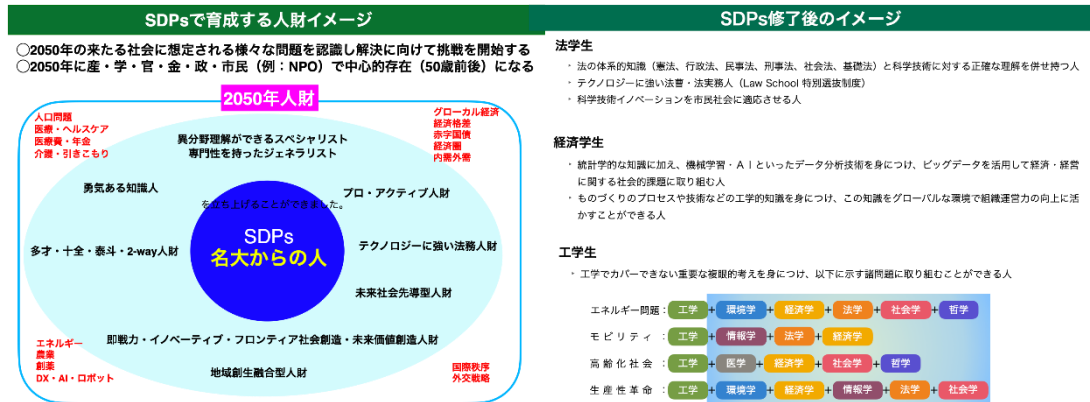
学科・専攻の最近の新しい取り組みの紹介

尾上 順

工学研究科 副研究科長・教授・SDPs 運営委員

(1) Super Degree Programs (SDPs)がスタート

日本の科学技術力低下の要因の 1 つとして若手研究者不足が挙げられ、それを解消するための施策として、科学技術基本計画では博士後期課程進学者を増やす目的で、文科省主導の博士教育プログラム（COE21，リーディング大学院，卓越大学院，など）が施行されていることはご承知の通りです。エネルギー系 2 専攻も現在卓越大学院 DII プログラムに参画しております。博士後期課程学生への経済的支援だけなら博士研究に専念できるのですが，卓越大学院などではこれまでにない新たな取り組みを作っている関係で採択された学生に対して新たな duty が課せられ，それを熟すのに多くの時間を費やしているのが現状のように見え，よほど要領良く熟さないと博士研究に割く時間が減ってしまい，学位論文の質が低下したり期間内で修了要件（エネルギー系 2 専攻の場合：第一著者掲載またはアクセプトの論文が 2 報）を満たさないなど本末転倒になってしまう危うさが内在しています。また，これらのプログラムは 7 年間文科省から支援を受けますが，支援終了後もプログラム自体は継続することが採択条件になっており，博士後期課程への経済支援の原資を他（例えば民間）から調達する必要が生じます。さらには，これまで文科省からの助成金で新たな取り組みに関して雇用していた特任教員や事務職員を別原資で雇用できないと，彼らの仕事が承継教員（7 年後以降も在籍している教員）や職員に回ることになり，大きな負担となります。これがいわゆる「毒饅頭」と言われる所以です。とくに，教員サイドの視点に立つと，予算を取ってきて潤沢な期間での教員は 7 年後に退職して居らず，残された若手教員に「負の遺産」（他から原資を調達しないと，仕事が自分達に降ってくることになる）を残すことになり兼ねません。この問題を解決するために，2 年前から，公的資金に頼らず今ある教育システムをフル活用することでこれまでにない画期的な教育プログラムをボトムアップで作れないかを工学研究科が中心となって，法学研究科・経済学研究科・情報科学研究科・環境学研究科と議論を重ねた結果，2022 年度に「Super Degree Programs (SDPs): 明るい未来社会を創る“名大からの人”育成プロジェクト」（情報科学研究科と環境学研究科は協力部局として参画）が立ち上がりました。このプログラムの導入科目として春学期から「エネルギー実学概論」（工学研究科）及び「実学概論基礎」（法学部）が開講し，法学部生・経済学部生・工学生が各話題（アカデミア・産業界で活躍されている講師による話題提供）に対して 2050 年を想定した社会的課題についてグループワークを通して意見交換し発表するユニークな授業形式です。教員も楽しく勉強しています。ご興味ある方は尾上までお問い合わせください（E-mail: j-onoe@energy.nagoya-u.ac.jp）。



エネルギー実学概論・実学概論基礎（金5限16:30-18:00）

少子高齢化の我が国にとって、エネルギー問題は社会全体に関わる最重要課題の1つであり、環境学・経済学・法学・社会学・哲学など様々な学術分野が大きく関わっている。本講義では、様々な分野において第一線で活躍されている学内・学外講師による多様な講義とグループワークを通じて、俯瞰的・複眼的な知識を得ると同時に、2050年のエネルギー・社会問題を見通せる能力と問題抽出・解決能力の基礎スキルを獲得することを目的とする。

様々な分野の第一線で活躍する多彩な学内・学外講師陣



（2）旧帝大初：推薦入試に女子枠設定

（1）で記載の科学技術基本計画では、欧米の有名大学と比較して女性研究者比率が極めて少ないため（多様性の欠如）、段階的に KPI を設定し欧米並みにその比率を近づけることが求められています。しかしながら、ご存知のように工学系はそもそも女子学生が少ないため、工学系女性研究者数はごく僅かです。工学系女性研究者を増やすには、長期的ビジョンから母数である工学系女子学生の比率を上げることが必要不可欠です。そこで、当学科では旧帝大初となる推薦入試に女子枠を2023年度入学者に対して設定しました（電気電子情報学科も追随）。本件は、新聞・予備校などで大きく取り上げていただきましたので、詳細は「名大 推薦入試 女子枠」でクリックいただけますと関連情報をご覧いただけます。

昇任のご挨拶

山田 智明

令和3年9月1日付けでエネルギー理工学専攻・エネルギー材料工学講座の教授に昇任しました山田です。2010年11月に改組前のマテリアル理工学専攻・量子エネルギー工学分野の同講座に准教授として着任してから約11年が経ちました。研究グループの長である長崎正雅教授にはもちろんのこと、これまでご指導・ご支援くださいました当教室の先生方に深く御礼申し上げますとともに、一緒に楽しく研究をさせていただいた卒業生や現役学生の皆様に感謝申し上げます。

私は、東京工業大学・無機材料工学科（学士）および材料工学専攻（修士・博士）の後、スイス連邦工科大学ローザンヌ校 EPFL・材料研究所でのポスドク（4年間）、東京工業大学・総合理工学研究科での特任助教（2.5年間）を経て本学に参りました。我々の世代は、学生として研究室に所属していた時期が、ちょうどポスドク1万人計画と重なっています。ただ、当時の私はそういったことには全く疎く、博士の学位をとった後はとにかく海外で研究したいという思いで、ポスドクの職を得るために20名近くの海外の先生にコンタクトを取りました。その結果 EPFL でポスドクの機会をいただきましたが、研究内容だけでなく、職業研究者としての姿勢や責任など、多くの点で刺激を受けました。ポスドクはプロジェクトの実質的なマネジメントや共同研究先の企業とのやり取りを任される「職業」であり、すっかりその文化に慣れてしまった私は、日本から来た先生に「留学」と言われて内心ムッとしたことを覚えています。また、ご存じのように海外では博士課程後にポスドクを経て企業に就職するのがメジャーなキャリアパスですが、日本の大学を出た当時の私には博士→ポスドク→企業（または博士→企業）というイメージがなく、日本との大きな違いを感じました。しかし現在の日本を見ると、ジョブ型雇用や更なるグローバル化が進んでおり、将来的には似たような形になる可能性もあるのではないかと考えています。そのため、学生さんには、国内の特殊な就職事情ではなく世界を見てほしいと話しているのですが、私の説明にはあまり説得力がないようです。いずれにしても、本学の学生さんには世界を舞台に活躍していただきたいと願っております。

研究については、これまで誘電体を中心とする電子材料の薄膜・ナノ構造の成長・特性制御とそれらのエネルギー機能応用に関する研究に取り組んできました。特にここ数年は、圧電体ナノ構造の環境振動エナジーハーベスタ応用（JST さきがけ/CREST 微小エネルギー領域）、新規チューナブル誘電体の開発（元素戦略プロジェクト）、強誘電体膜の電気光学効果とデバイス応用（国際共同研究）に取り組んでいます。今後もこれらの研究を推進するとともに、独自の視点で他のエネルギー機能・デバイスにも幅を広げることで、当教室の発展に少しでも貢献したいと考えております。皆様の変わらぬご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

活動報告

1. 名原会総会

令和3年10月16日(土)に名古屋大学ホームカミングデイと併せて令和3年度の名原会総会が開催されました。例年であれば名古屋大学にて開催をしておりましたが、開催時期の新型コロナウイルス感染状況を考慮して対面開催を断念し、オンライン配信での開催といたしました。現職員および卒業生あわせて22名にご参加いただき、新役員の選出、平成30年から令和2年までの活動内容と決算の報告、今後の活動と会則の変更に関して議論が交わされました。オンライン開催のため、懇親会を開くことはできませんでしたが、利点として遠方の先輩方にもご参加いただくことができ、活発な議論につながったと思っております。ご参加いただきました皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。

2. 卒業生との集い

令和4年2月21日(月)に「卒業生との集い」が開催されました。昨年に引き続きコロナ禍における開催となったため、オンライン配信での開催となりました。11の企業・団体から19名の卒業生が登壇し、9名の在校生がキャリアパスに関する講演を聴講いたしました。ご参加いただいた先輩方、在校生の皆様にはこの場を借りて深く感謝申し上げます。今回はZoomのブレイクアウトルームを用いて少人数による自由討論の場を設けました。対面での討論に及ばないまでも、卒業生と在校生の活発な討論の場を創出することができたと思います。次回は来年の2月頃に開催を予定しております。ご意見、ご要望がございましたらご連絡くださいますようお願いいたします。

3. 原子力オープンスクール

名古屋市にございますでんきの科学館(中部電力)にて開催しております原子力オープンスクールですが、2021年も新型コロナウイルス蔓延の影響により実施いたしませんでした。

教室の近況

1. 職員の異動

山田 智明

教授に昇任(エネルギー機能材料工学グループ)
(令和3年9月1日)

中野 治久

准教授に着任（核融合科学研究所）
（令和3年10月1日）

高島 舞

助教に着任（エネルギーナノマテリアル科学グループ）
（令和4年4月1日）

森泉 純

転出（原子力規制庁へ）
（令和4年3月31日）

Volker Sonnenschein

転出
（令和4年5月1日）

恒吉 達矢

退職
（令和4年3月31日）

研究室便り

『講座名』 Tel/Fax 052-789-XXXX
担当教員（◎：教授，○：准教授，□：講師，無印：助教）

エネルギー材料工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギー機能材料工学グループ』 3607, 4689, 3792/4691, 3779

◎長崎 正雅，◎山田 智明，○柚原 淳司，吉野 正人

新奇材料の創成を目指してバルクからナノまで幅広く試料作りから分析評価まで行っています。国内外の共同研究も以前にも増して幅広くやっています。

学生，スタッフの研究活動について研究室 HP（<https://enemat.energy.nagoya-u.ac.jp/>，<https://yuhara.nucl.nagoya-u.ac.jp/>）もご覧いただけますと幸いです。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度はB4が5名，M1が6名，M2が5名，Dが1名の学生総勢17名の大人数となりました。コロナウイルスの影響で会議等はリモート環境中心ですが，積極的にコミュニケーションを取りながら研究に日々取り組んでおります。新たに入ったB4は先輩から研究の進め方を吸収するだけでなく自発的に取り組んでおり，M1以上も周りに刺激を受けながら活動しています。また，球技大会の復活を期待して，その練習にも励んでおります。現在は移動の制限があるとは思いますが，コロナウイルスが収束した際には是非とも研究室にお立ち寄りください。

エネルギー材料工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギーナノマテリアル科学グループ』

3784（尾上）/3785（中谷）/3783（高島・学生部屋）

◎尾上 順，○中谷 真人，高島 舞

本研究室では、環境エネルギー材料の創製とその応用をテーマに、物理・化学・数学・材料科学・計算科学などを駆使し研究を進めております。具体的には、ナノ炭素等の新奇ナノ物質を創製し、高効率な光電変換あるいは熱電変換、光機能材料への応用や、ナノ空間材料を用いた希少金属元素のリサイクルプロセスや廃棄物処理など資源循環・原子力基盤技術への応用、酸化チタンなどの無機半導体光触媒材料を用いたエネルギー環境応用、を目標に研究活動に取り組んでおります。

「卒業生の皆様へ・・・」

新たに高島助教と3名のB4、1名の研究生が加わり、令和4年度の尾上研究室は招聘教員を含めた教員が5名、M2が4名、M1が3名、B4が3名、研究生が1名の、総勢16名となりました。中国からの留学生も6月末には全員が日本に入国でき、ようやく全員がそろえることができました。最近は授業だけでなく研究打ち合わせなども次第に対面形式に戻りつつありますが、コロナ禍で培ったオンライン会議の長所も活かし、目的に応じて対面とオンラインを組み合わせるなど、工夫しながら研究活動を進めています。卒業生の皆様、機会がありましたらお気軽に研究室にお立ち寄りください。ホームページ（<https://www2.nucl.nagoya-u.ac.jp>）も刷新（スマホ対応）しましたので、合わせてご覧いただき、お気づきの点がありましたら、ご遠慮なくご連絡ください。

未来材料・システム研究所

『高度計測技術実践センター X線分光計測部』

5893（池永）/5862（小川）/5855（学生部屋）

○池永 英司，小川 智史

“環境材料の創製とその物性評価”を研究テーマとして、持続可能なエネルギーシステムの実現に不可欠な機能性材料の開発と評価を行っております。加硫ゴム、電池材料および水素吸蔵材料などの幅広い材料系に対して、赤外から硬X線までの様々な波長の光を用いた分光測定による材料評価を行っており、物理学・化学・生物学といった垣根にとらわれない、分野融合の研究活動を推進しています。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度4月にB4の学生3名が研究室に加わりました。また、海外からの研究生も加わって、令和4年の当研究室は教員2名、修士課程学生2名、学部4年生3名、研究生1名の計9名の構成となっております。相変わらず、居室のある研究所共同館Ⅰは名古屋大学駅から遠いため、ご不便をおかけいたしますが、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。年度初めに学生部屋の模様替えを行いましたので、少し驚かれるかもしれません。オンラインでのご訪問も大歓迎です。

エネルギー材料工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギーソフトマテリアル科学研究グループ』

3602/4680

◎鳴瀧 彩絵, 高橋 倫太郎

当研究室は 2020 年 4 月にスタートし、現在は D1（社会人）が 1 名、M2 が 3 名、M1 が 4 名、B4 が 4 名、技術補佐員 1 名、事務補佐員 1 名、教員 2 名のメンバーで、高分子・分子集合体・コロイド・ゲルなどのソフトマテリアルを対象とした研究を展開しています。特に、ソフトマテリアルを「省エネルギーでつくる」研究、ソフトマテリアルを使って「環境中のエネルギーから電力を得る」「医療に役立つ材料をつくる」研究に取り組み、環境・エネルギー・医療分野での課題解決を目指しています。

2021 年度は、水浄化材料の研究について、スウェーデン・リンショーピン大学との共同研究がスタートしました。当研究室で開発を進めている人工タンパク質ゲルの中で細胞の三次元培養に成功し、特許出願を行いました。さらに、当研究室がスタートしてから着手した研究についての論文が、先日、国際誌にアクセプトされました。研究室のウェブサイト (<https://softmater.energy.nagoya-u.ac.jp/index.html>) でも、研究活動を公開・更新しておりますのでご覧いただけますと幸いです。

「卒業生の皆様へ・・・」

当グループからの卒業生はまだおりませんが、他研究室の OB・OG の方とお話しさせていただける機会がありましたら、教員・学生共々嬉しく思います。共同研究も幅広く展開しておりますので、お気軽にご連絡下さい。

エネルギー量子工学講座（エネルギー理工学専攻）

『応用核物理学グループ』

アイソトープ総合センター

2569/2567

◎柴田 理尋, ○小島 康明

原子核の核構造および崩壊様式の解明を行い、核データベースの構築に貢献することを目指しています。そのために、京都大学の原子炉や原子力機構の加速器に設置されたオンライン同位体分離装置を使い、不安定核に対する β 線および γ 線、内部転換電子の計測を行っています。

「卒業生の皆様へ・・・」

M2：1 名、M1：1 名、B4：2 名のメンバーで研究活動を行っています。少人数ですが、明るい雰囲気です。切磋琢磨しています。現在、プラスチックシンチレータを利用した核データ測定や、原子力機構との共同研究で、低エネルギーの電子の測定に取り組んでいます。今後の研究の進展にご期待ください。皆様が名古屋にお越しの際は、ご遠慮なくお気軽に研究室にお立ち寄りください。メンバー一同よりお待ち申し上げます。

エネルギー流体工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギー熱流体工学グループ』

4693/4692

◎辻 義之

流動や熱輸送の観点からエネルギーシステムの安全性と経済性の向上を目指した研究をすすめています。組織的な流体構造を有する壁面上の乱流，流体の常識とはかけ離れた振る舞いを示す量子流体（超流動），配管壁からの物質拡散，流れが作る音（流体音），沸騰熱輸送や三相接触線挙動といった現象に対して，実験・数値解析技術を織り交ぜながらさまざまなアプローチから試行錯誤を重ねています。新しくなった名大スパコン「不老」を用いて，大規模データの解析と流体力学への機械学習の適用も進行しています。

「卒業生の皆様へ・・・」

研究室の学生は，学部生が4名，修士課程が8名，博士課程が5名と今年度も大所帯ですが，折からのコロナ禍により学生部屋に一度に集まることや長時間の滞在は自粛中です。全員が戸惑いながらはじめたオンラインでのコロキウムも，最近の発表は様になってきました。活動状況はホームページにも随時掲載しておりますので，時間がありましたらご笑覧下さい(<http://navier.energy.nagoya-u.ac.jp>)。オンライン形式での研究室訪問也大歓迎です。先日も電力会社に就職した20年前の卒業生が訪ねてくれました。なんとも楽しい時間を過ごせました。メンバー一同，心よりお待ちしております。

エネルギー流体工学講座（エネルギー理工学専攻）

『エネルギー電磁流体工学グループ』

0572-58-2149

◎渡邊 清政

核融合科学研究所（岐阜県土岐市，以下，核融合研）の研究職員が名古屋大学の客員教員を務める大学院連携講座の一つで，主に，核融合研の大型ヘリカル装置（LHD）とスーパーコンピュータを使って，電磁流体である核融合炉心プラズマの安定的な閉じ込めと，経済的な核融合発電炉に不可欠な高ベータプラズマの生成・維持方法の開発研究を行っています。具体的には，核融合研のLHD装置，名古屋大学の電気工学系の小型トカマク装置HYBTOK-IIでの実験・解析を通じたMHD不安定性・磁気島に関する研究，径電場，補正磁場を用いたヘリカル型の核融合炉における α 粒子の閉じ込め性能の制御手法の研究も進められています。また，電磁流体をキーワードに，量子科学技術研究開発機構や各大学の核融合実験装置と共同で，デスラプション現象や磁気島の発生機構の研究も行っています。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度も，B4が1名，新たに研究室に参加してくれました。昨年度のB4は博士前期課程に進学しましたので，研究室所属の学生は4名となっています。研究課題としては，核融合研のLHD装置における外部RMPを用いたMHD不安定性の抑制，磁場配位によるMHD不安定特性の違い，ヘリカル型核融合炉の α 粒子シミュレーションに取り組んでいます。

核融合工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『核融合プラズマ理工学グループ』

4593/3935

◎藤田 隆明，○岡本 敦

「地上の太陽＝核融合炉」のエネルギーを実現するために、（１）環状プラズマ実験装置 TOKASTAR-2，直線磁化プラズマ実験装置 NUMBER を用いた実験研究，および（２）プラズマ統合輸送コード TOTAL，核融合炉システム設計コード PEC を用いた数値計算研究に取り組んでいます。

「卒業生の皆様へ・・・」

TOKASTAR-2 実験装置では真空排気システムの整備が行われ，排気系モニタやガスパフ装置を備えた新システムにより，安定した実験が再開されるようになりました。直線型プラズマ実験装置 NUMBER では電子ログノートが整備され運用を開始しました。３月まで実験をサポートいただいた有本先生が退職され，現在，学部４年生が４名，M1 が４名，M2 が４名，D2 が１名で，教員を含めて１５人で研究を進めています。全員が参加する会合にはオンラインを活用しつつ，対面での輪講や実験など感染対策を取りながら実施しています。卒業生の皆様，名古屋に来られた折にはご遠慮なくお気軽に研究室にお立ち寄りください。また，皆様からの後輩へのご支援・ご要望などございましたらお知らせ頂ければ幸いです。

核融合工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『核融合炉工学グループ』

0572-58-2319，2209

○田中 照也，○中野 治久

本研究室は自然科学研究機構・核融合科学研究所内にあり，核融合炉の実現に必要な工学研究を進めています。炉心プラズマの加熱・計測工学，及び，核融合発電システム用材料の研究に取り組んでいます。令和３年１０月より，中性粒子ビーム加熱および中性粒子ビームによって加熱された高温プラズマを主な専門分野とする中野治久准教授が加わり，研究指導に当たっています。

「卒業生の皆様へ・・・」

現在，修士課程２名，学部生２名が在籍し，電磁波ビーム伝搬解析コードの開発研究，先進負イオン源に関する研究，先進発電システム用セラミック材料への放射線照射効果研究等を進めています。2021 年３月まで本研究室で指導されていた久保先生は引き続き中部大学で教鞭をとられており，核融合研での実験や議論にも参加されておられます。機会がありましたら，ぜひ研究室にお立ち寄りください。

エネルギーシステム工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『エネルギー資源循環工学グループ』

5936

◎榎田 洋一，○澤田 佳代，桑原 彬

私たちの研究グループは，原子力エネルギー等の利用のための総合基盤となる燃料サイクル・システムを実現することが最終目標であり，これに必須となる実用工学技術の設計および開発を目的としております。エネルギー変換には負の遺産である種々

の廃棄物の発生を伴いますので、それらの正統な管理（処理・処分・資源循環）技術の開発が重要です。特に、原子力エネルギー利用に伴う放射性廃棄物管理の研究に精力を注いでいます。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度の榎田研究室を構成するメンバーは、新たに学部生 2 名を迎え入れ、B4 が 2 名、M1 が 1 名、M2 が 1 名、教員 3 名となっております。現在の榎田研究室の所在は、工学研究科 8 号館南棟 3 階となります。榎田研究室の卒業生の皆様、名古屋にお越しの際は、是非ともお立ち寄り下さい。

エネルギーシステム工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『応用同位体科学グループ』

3786/————

○杉山 貴彦

同位体に関する科学と技術のなかでも実用に近いところに重点をおいて、研究を進めています。これまで続けてきた核エネルギーの平和利用の分野を中心に、医療用同位体や天体物理など他分野との関わりを広げながら発展することを模索します。簡易ながら研究室のホームページにも記載がございますのでご覧ください。

<https://ais.energy.nagoya-u.ac.jp/index.html>

「卒業生の皆様へ・・・」

昨年秋に、社会人博士が 1 名、またこの春、4 年生が 3 名加わり、少しずつにぎやかになってきました。相乗効果も見られ、研究室にも最小催行人数があるのだと実感します。同位体関連の技術相談など、学外から声がかかる機会が継続的にあって、それなりに忙しく過ごしています。山本一良研究室の卒業生の皆様におかれましても、ご連絡、ご訪問いただければ、うれしく思います。

エネルギーシステム工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『原子核計測工学グループ』

3797/3843

◎瓜谷 章，○吉橋 幸子，山崎 淳

中性子用新規シンチレータの高度利用法の開発、新型放射線検出器および測定法の開発、放射線治療時の線量評価法の開発などに関する研究を進めています。また、原子核第一特別実験棟に設置された名古屋大学小型加速器中性子源（NUANS）の稼働も始まり、ホウ素中性子補足療法（BNCT）関連の研究も活気を帯びてきています。

「卒業生の皆様へ・・・」

今春は四年生が 4 名加わり、D3 が 2 名、M2 が 6 名、M1 が 3 名、B4 が 5 名と合わせて学生総勢 16 名と大人数となりました。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。メンバー一同心からお待ちしております。瓜谷研究室の HP (<http://www.qep.energy.nagoya-u.ac.jp/>) も随時更新しておりますので、ぜひご覧ください。

エネルギー安全工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『エネルギー環境安全工学グループ』

3781/3782

◎山澤 弘実

エネルギー生産・消費にともなう種々の環境問題について関連物質の動態把握・予測，放射線被曝防護を中心課題として，野外観測，室内実験，数値シミュレーションを駆使して研究しています。東電福島原発事故について，事故後 10 余年を経過した時点で事故初期の大気環境に関する知見を総ざらいする研究を進め，測定データに基づく大気中濃度の復元，世界の先端的大気拡散モデル開発者の参加を得ての相互比較・検証，モデル予測の緊急時利用法の検討等を行い，事後評価で S 評価を得ました。

「卒業生の皆様へ・・・」

修了・卒業された皆さんの活躍で，上記成果を得ることができました。皆さんの在学中の努力に感謝しています。本年度より，森泉先生は原子力規制庁の研究職として転出されました。この 6 月には，前々任の教授であった池邊幸正先生がご逝去されました。先生のご冥福をお祈りするとともに，先生の残された研究業績と人材の礎があって今日の研究があることに改めて心を致しています。山澤の任期も残り 1 年余となりましたので，そのうち尋ねようと考えている方は，早めにお越しください。平井さんとともにお待ちしております。

エネルギー安全工学講座（総合エネルギー理工学専攻）

『エネルギー環境計測工学グループ』

○富田 英生

私たちの研究グループでは，エネルギー量子を活用したエネルギー分野の計測や環境計測の研究開発と医療・創薬，原子核物理，社会安全などに関連した多様な量子センシング応用に関する教育・研究を行っています。

「卒業生の皆様へ・・・」

M2 5 名が 3 月末で無事修了するとともに，4 月末でフォルカ先生が異動されました。昨年度より所属していた学生に加え，今年度は新たに三名が加わり，D2：2 名，M2：3 名，M1：3 名，B4：2 名の総勢 10 名の学生で研究生生活を送っております。

新型コロナウイルスの影響も若干少なくなりつつあり，日々の研究に励んでおります。昨今の情勢もあり難しくはありますが，今後も OB 会や学会等で井口研究室・富田研究室 OB の皆様にお会いし，叱咤激励を頂けることを楽しみにしております。人の交流が再び活発にできるようになりましたら，お近くにお越しの際はぜひとも研究室にお立ち寄りください。研究室一同，心よりお待ちしております。

エネルギー安全工学講座（総合エネルギー工学専攻）

『原子核エネルギー制御工学グループ』

3775/3608

◎山本 章夫, ○遠藤 知弘

原子炉物理学とデータサイエンスを通じて、原子力安全の向上を目的とした研究を行っています。主な研究内容として、(1)炉心解析技術の向上、(2)核計算や核データの不確かさ評価、(3)原子力設備の確率論的リスク評価、(4)未臨界度測定技術の開発などに取り組んでおり、最近では原子炉物理学を他分野の研究に応用することも試みています。コロナ禍においても、個々の学生が精力的に研究に取り組み、オンラインでの学会発表にも積極的に参加しております。これまでの研究成果は、研究室 HP で確認できます。

（山本研究室 HP：<https://www.fermi.energy.nagoya-u.ac.jp/>）

「卒業生の皆様へ・・・」

令和3年度は相変わらずの新型コロナウイルスの流行により、お互いに対面で顔を合わせる機会が少ない状況が続いていました。当研究室では研究室メンバー同士の繋がりを確保するため、平日に毎日 Zoom での顔合わせを継続して行っています。研究室での飲み会も Zoom を使って実施しており、これまで通り活気ある研究室生活を楽しんでいます。

令和4年度は M2：2 名、M1：4 名に加え、個性豊かな B4：4 名が配属されました。また、社会人 Dr. 2 名も在籍しており、多様な人材が集まっております。令和2年度から引き続き、顔合わせは毎日実施しているので、もし顔合わせ参加に興味ある OB の方々がおられましたら、参加 welcome なので是非ご連絡ください。

会員の声

名原会（元）幹事のつぶやき

森泉 純

この原稿を作成途中に恩師、池辺幸正先生の訃報を、名原会からメールでお知らせ頂きました。先生のご冥福をお祈り致します。先生、ありがとうございました。

この度、名古屋大学を退職し、名原会の幹事も退かせて頂きました。名原会にはこれまで会員というよりも運営側として関わって参りましたが、これからは多くの会員の皆様と同じ立場となります。そしてまた、この四半世紀での変化、幹事としてできた事、できなかった事、などを思い返すきっかけともなりました。

同窓会の維持もなかなかたいへんです。特にその生命線であり存在価値そのものとも言える卒業生名簿のアップデートには、地味に手間ひまがかかります。私は担当の幹事のご奮闘をそばで見えていたばかりで、差し出がましい物言い、誠に恐縮ですが、そんな名簿ですが、個人情報保護の必要から、扱いも難しくなりました。会員名簿の配布が取りやめになって久しく、それが会員間の連絡の取りにくさとなり、同窓会の使い勝手も、帰属意識も損なわれたように思います。

一方で、世の中のコミュニケーションの高速化に取り残されているとも感じていました。一人一台が当たり前、引越しても番号の変わらぬ携帯電話。インターネットの普及による通信の飛躍、これをインフラとして行われる電子メール、情報発信、そして SNS。つまり、IT。少なくとも最近 10 年の卒業生は、おそらく在学中から利用している Facebook、LINE といった SNS で、同学年、また同時期に在籍した先輩後輩と繋がり、連絡を取りたければすぐ取れる状態を維持したまま、社会に出ていきます。

このような世界で、同窓会の役割はどこにあるか悩みました。単に同級生との連絡では手軽さでもスピード感でも及ぶべくもありません。同窓会の強みは、年代を超えた繋がり、すなわち知恵やアイデアの交換の場の提供ではないでしょうか。先輩方は若い世代にアピールし、またその発想とセンスを、名原会を通じて求めてはいかがでしょうか。後輩は偉大な先輩の足跡と悪評（笑）を研究室等で知り得ますが、当然ながら先に出て行った先輩方は、後にどんな奴がいるのか、知る機会は多くありません。そんなことは以前から同じだと言われそうですが、そこを IT で強化できたらなとなんとか思いつつ、果たせませんでした。

この 2 年余り、新型コロナウイルス感染症が世に気づかせたのは、要件を済ますなら直に顔を合わせずともオンラインで特段苦もないということです。オンラインなら移動の時間も旅費も節約でき、まったくもって便利で効率的。一方で、直接会って話す機会には、オンラインでは足りない何かがあると感じた方もいらっしゃるかと思います。それは「空気」なのかもしれません。名原会が、名古屋以外でも、各地で卒業生どう

しが集うためのプラットフォームとして機能したらな、などと思いました。

,,, こんな原稿を寝かせていた最中、冒頭の訃報に触れました。メールを送信下さった幹事の先生方、ありがとうございます。お知らせを受け取れたのも名簿にメールアドレスの登録があったから。どんなサービスも、良質なデータベースあってこそと、あらためて感じ入りました。

名原会の名簿は、今は全学同窓会 (<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>) のシステムで管理しています。オンラインでいつでも情報更新可能です。会員の皆様も、お誘い合わせてぜひ名簿情報のアップデートを。

<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>

実に素っ気無い事務的なページですね（閲覧：2022 年 6 月某日）。これはもうちょっとなんとかした方がいいでしょう。

客員教員着任のご挨拶

中野 治久

令和3年10月より、総合エネルギー工学専攻の客員准教授を拝命し、核融合工学講座核融合炉工学グループに着任しました核融合科学研究所の中野治久と申します。専門はプラズマ物理学で、なかでもプラズマ加熱装置のひとつである水素負イオン用いた中性粒子ビーム入射装置について、装置に内在する物理学およびこの物理に立脚した装置の高性能化を専門としています。また、中性粒子ビーム入射装置で加熱された磁場閉じ込めプラズマ内の輸送現象にも興味を持って取り組んでいます。

名古屋大学とのご縁としては、博士前期課程で理学研究科素粒子宇宙物理学専攻に所属し、核融合科学研究所の兼任であった田中雅慶先生のご指導の下、直線型基礎プラズマ装置を用いて磁気流体波動に関する実験研究を行いました。博士後期課程では総合研究大学院大学の核融合科学専攻に所属し、藤澤彰英先生のご指導の下、磁場閉じ込めプラズマをビームで測る計測器の高性能化およびこの計測器を用いたプラズマ中の乱流と輸送に関する実験研究を行い、学位を取得しました。学位取得後、核融合科学研究所でポスドクの職を得て、核融合科学研究所の基幹装置である大型ヘリカル装置において博士後期課程の研究を発展させました。その後、核融合科学研究所において中性粒子ビーム入射装置を主担当する助教の職を得て、一部期間、総合研究大学院大学の教員を併任しつつ、現在に至ります。今思えば、名古屋大学大学院時代に扱った直線型基礎プラズマ装置が、中性粒子ビーム入射装置の一部である中性化装置の関連装置であったことを思うと、感慨深いものがあります。中性粒子ビーム入射装置については現在、ビーム源である水素負イオン源に関する研究をITER 機構や量子科学技術研究開発機構を始めとして国内外の大学等機関と協力しながら進めています。核融合研究にも必要なイノベーションの創造には専門研究だけでなく研究の多様性の確保が重要です。大学は正に多様性の宝庫ですので、今回の着任を機に更に視野を広げて研究の多様性を広げて行きたいと思います。皆様からもお気軽にお声掛け頂けると幸いです。

実用化まであと30年と言われて久しい核融合研究も、燃焼プラズマ実験を行うITERの運転開始を目前に控え、またいくつものスタートアップ企業が日本を含めて世界中で大型資金を得て活動を始めており、期待感が高まりつつあります。しかし、まだ10年単位での研究が必要です。このため、今後の核融合研究を、意欲をもって推進する人材やエネルギー理工学の幅広い見識をもった人材をエネルギー理工学教室の一員として継続して育成していきたいと考えております。何卒、よろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

高島 舞

令和4年4月1日付けでエネルギー理工学専攻・エネルギー材料工学講座（尾上研究室）の助教に着任いたしました，高島と申します．出身は福井県で，高校まで過ごした後，名古屋大学工学部物理工学科に入学いたしました．その後，材料工学コースに進み，4年時には高井治教授の研究室に配属になり，ちょうど3大学交流プログラムで東京工業大学よりきていた大竹尚登准教授（当時）のグループに入り，プラズマ技術を用いた炭素系薄膜（主にダイヤモンド状薄膜）の合成と耐摩耗性・耐腐食性評価の研究に従事しました．当時の研究室は工学部9号館5階にあり，現在の居室が9号館4階であることは，なにかご縁を感じずにはられません．その後，教員の移動とともに東京工業大学に移り，平成25年に東京工業大学の機械物理工学専攻で博士（工学）の学位を取得後，日本電信電話株式会社環境エネルギー研究所研究員，北海道大学触媒科学研究所助教を経て，現職に至ります．学生時分は「研究の楽しさ・醍醐味」を味わい，研究所時分には「人とのつながりの大切さ」を知ると同時に新しい専門分野に挑戦する機会を頂き，北大時分には「研究とはなにか」を一からたたき込まれ，今に至ります．新たな（しかし名大という馴染みのある）環境で今度はどんなもの・人に出会い，なにを学べるか…今からとてもワクワクしている次第です．

現在の専門は光触媒で，特に光触媒反応の基本原理の解明に興味をもって研究を進めております．人工光合成反応である水分解や二酸化炭素の還元反応，光触媒の応用でもっとも広く使われている有機化合物の酸化分解反応のいずれにも含まれるキー反応である「水と酸素がかかわる多電子移動反応」に注目し，たとえば固体半導体粉末を用いた不均一系光触媒反応の光強度依存性解析を行っております．また，固体材料の表面構造をマクロに測定できる逆二重励起光音響分光法を用いた電子トラップ密度のエネルギー分布の測定およびその応用にも力をいれております．この測定手法はアモルファスなどの結晶構造をもたない材料にも用いることができ，光触媒や太陽電池のような電子トラップを介した光機能性材料だけでなく，たとえばこれまで電子顕微鏡観察くらいしかその「特性」評価が叶わなかった陽極チタニアナノチューブや研磨剤材料である酸化セリアなどでも，その表面構造の違いを検出できております．この測定技術にご興味のある方はご一報いただければ，よろこんで測定させていただきます．

最後に，名古屋大学にて再び研究する機会をいただけたことに感謝し，新しい研究テーマをワクワクしながら進められたらと思っております．教育・研究活動におきましては，未熟な点が多々あるとは思いますが，あたたかい目で見守っていただき，ご指導・ご鞭撻頂けたら幸甚です．

近況報告①

小迫 誠弥

この度の3月にエネルギー理工学専攻博士後期課程を修了いたしました小迫誠弥と申します。今回こうして記事執筆のご依頼を頂きましたが、特に書くことも思いつきませんでしたので、最近どうも物忘れがひどい私が覚えているうちに名古屋大学に関わるこれまでを振り返っていこうと思います。

現在の私の姿は昔の私からは全く想像がつかないと思います。中学・高校時代の私は日夜ゲームセンターに入り浸っており、学校へもあまり登校していませんでした。当たり前のように成績は壊滅的であり、高校3年生の時点で偏差値は30程度しかありませんでした。これは高校3年生で数学の三角関数を知らないレベルです。三角関数の存在を知り、三角形の辺の長さはすべて三平方の定理で解けると思っていた当時の私は大変衝撃を受けたことを覚えています。こうした状況であったため、当初の私には大学へ進学するという考え自体がありませんでしたが、高校の恩師の支えもあって名古屋大学を志望し、幸運にも入学することができた次第でございます。入学当初、周りを見渡せばエリートな人生を歩まれてこられた方ばかりで、私のようなものがうまくやっていけるか心配しておりました。そこで、周りの皆に置いて行かれないように必死に勉学に取り組んでおりましたが、加減を誤ったのかなんとエネルギー理工学専攻の首席の座をいただくことができました。4年時には辻研究室に配属されました。私は大学での講義で流体力学に大変興味を持ったことに加え、ちょうどこの頃、親族が闘病した経験から術後ケア、特に音声治療に関わる研究を行いたいと漠然と考えておりました。恩師である辻教授はこの考えに興味をもってくださり、もともと研究室で行われていなかったテーマにも関わらず、声に関する研究の場を与えてくださいました。自分で立ち上げたテーマは自分が納得できるまでやろうという考えで博士課程に進学しました。研究では医学、音響等の他分野の知識もふんだんに必要であり、一人の力ではわからないことばかりでしたので、名古屋大学医学部の先生方や他大学のご専門の先生のもとへ積極的に訪問して意見交換を行いました。多くの方のご支援いただいたおかげで研究をなんとか博士論文としてまとめることができました。そして現在は、大学での専門性を活かし、三菱電機株式会社先端技術総合研究所の新入社員として働いております。こうして振り返ってみると、私は自分で立てた目標に対して非常に諦めが悪く、博士課程ではそれがさらに強化され、研究職という現在の業務に活着しているように思います。私の大好きな映画である「フォレスト・ガンプ」という作品には、「人生はチョコレートの箱みたいなもの。開けてみないとわからない。」というセリフがあります。人生何が起こるかわからないけれど、最後に入っているのはきっとチョコレート（幸せ）という意味であり、ひたすらに誠実さを貫いた主人公の半生のことを指しています。私はお世辞にも誠実とは言えませんが、代わりに諦めの悪さを貫いていつか美味しいチョコレートを食べたいと考える今日この頃です。

福島での研究生活

佐々木 美雪

日本原子力研究開発機構 廃炉環境国際共同研究センター

令和3年に博士課程後期課程を修了しました佐々木美雪と申します。在学中は山本研究室で無人機を使用した放射線モニタリングデータの逆解析の研究を行いました。3年+2ヶ月に渡り、山本先生、遠藤先生、総合エネルギー工学専攻の先生方には多大なる御指導・御支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。

私は日本原子力研究開発機構にて福島第一原子力発電所の事故後、環境中の放射線モニタリングや無人機等を用いた放射線測定技術の研究開発を進めている中、社会人ドクターという形で大学にお世話になりました。コロナ化で大学での学位取得審査等全般、オンラインで行うという形でしたが、無事、学位を取得させていただき感謝申し上げます。今後は大学での研究成果を生かし、原子力防災等に適用できるよう技術開発を進めていきたいと考えております。

ここでせっかくの機会ですので、私自身について少しお話ししたいと思います。私は2009年に福島大学に入学し、6年間福島大学で勉強やら遊びに励んでおりました。入学当初は卒業したら実家の青森にある原燃にでも入れたら安泰かなと考えておりましたが、2011年に震災がありました。それから大学の研究室で放射線に関わる研究を行い、巡り巡って現在では研究者として活動しております。福島には10年以上暮らしておりますが、今思うと震災がなければ福島にこんなに長く暮らすこともなかったでしょうし、この私が研究者になったり、名古屋大学で学位を取ったりすることもなかったと思います。人生何が起こるか分からないものです。機構の業務では福島第一原子力発電所周辺の放射線モニタリング等を行っておりますが、そのデータが活用され、帰還困難区域の解除等が進んできているのを見てみると、この仕事をやってよかったなと思います。福島にお越しの際には、是非とも浜通り方面もお立ち寄りいただければと思います。

ちなみに最近、今まで大学の授業料に消えていた給料を活用し、新車購入計画やらマイホーム計画を進めようとしていますが、なぜかお金が消えていきます。私の口座は励起状態になると直ぐにお金を放出するようです。これも自然の摂理なのでしょう。どうすれば放出せずに備蓄できるのかについても、今後研究開発を進めていきたいと思っております。

最後になりましたが、今回執筆の機会を与えてくださった編集事務局の方に御礼を申し上げ、私の「会員の声」とさせていただきます。ご拝読いただき、誠にありがとうございました。

近況報告②

寺阪 祐太

日本原子力研究開発機構 廃炉環境国際共同研究センター

日本原子力研究開発機構の寺阪祐太と申します。2013年4月から2016年3月までの学部・修士の3年間は山澤研究室にて、就職後の2018年10月から2021年9月までの3年間の博士後期課程では社会人ドクターとして瓜谷研究室でお世話になりました。現在は福島県富岡町（福島第一原発 10km 圏内）で福島第一原発廃炉に係る放射線計測法の研究開発に携わっております。原子力分野において（話題的にも線量的にも）最もホットと言っても過言ではない現場を生で経験することが出来、非常に刺激的です。そこには通常の放射線防護の常識が通用しない環境が広がっており、現場サイドのニーズも様々であるため、少しずつ違うニーズに適用できる様々な計測法を研究・整備しておくことが重要であると日々感じております。

さて、本稿では福島第一を間近で見る者として最近特に感じていることを呟きたいと思います。それは、名大量子エネでも必ず教わる法令上の線量限度についての常識感覚です。

放射線業務従事者の法令上の線量限度は「5年間で100mSv未滿かつ、ある1年が50mSvを超えない」と定められているのは皆様ご承知の通りです。その上で、大学や研究所の管理区域でこの線量に達することはまずあり得ないこともご承知かと思います。一方で、福島第一原発の最前線ではどうであるかご存じでしょうか。線量率の高い場所では遠隔機器が使われており、人の被ばくは比較的抑えられているのでしょうか。事実としては、事故から12年が経過した現在でも線量限度の狭間で戦っている方が未だ多くいらっしゃいます（現場の用語では「線量がいっぱいになる」なんて言ったりもします）。事故直後の緊急時ならまだしも、今現在の話です。もちろん法令の範囲内での運用ではあるのですが、私自身も現場での調査研究を通して線量の大小感覚が麻痺してきており、この状況が長く続くことが望ましくないことは言うまでもありません。

私のモチベーションは、まさに上記の状況を少しずつでも改善することにあります。そのためには、通常の放射線防護のアプリケーションからは考えられないようなニッチな計測手法が時に必要となります。かつてはニーズが少なく埋もれてしまった研究が、こと福島第一では意外と生きる場合もあるかもしれません。今後も皆様のお力をお借りしつつ、研究活動に励んでいきたいと考えております。是非ともご指導のほど宜しくお願い致します。

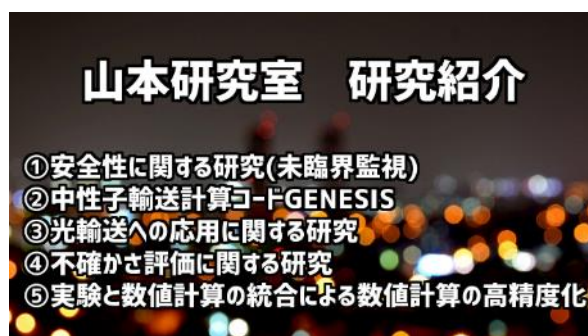
核院会便り

令和3年度の核院会では、新型コロナウイルスの影響を受け、様々なイベントが中止及びオンラインでの実施となりました。例年は春学期と秋学期に一度ずつ研究室対抗のスポーツ大会が行われていましたが、令和2年度は春学期の開催が中止となり、令和3年度は春秋共に開催することができませんでした。スポーツ大会の復活を望む学生は少なくありません。来年度は開催できることを期待しています。また、新型コロナウイルスの影響により、名大祭はオンラインでの開催となりました。各研究室から研究の紹介動画や資料が用意され、6月26日（土）から1ヶ月程度、名大祭ホームページにて公開されました。ご協力くださった各研究の皆様方、ありがとうございました。

令和4年度も引き続きコロナ禍での生活となりますが、活動の制限が緩まりつつあることを感じています。「研修室間の横の繋がり」強化を目的とする核院会としては、許された範囲の中で交流する機会を提供し、精一杯に核院会を盛り上げる所存です。令和4年度も研究室同士の親睦を深め、充実した研究生活を過ごしましょう。



尾上研の研究紹介



山本研の研究紹介

オンライン開催の名大祭における研究紹介動画の例

お知らせ

1. 名原会ニュース印刷・発送廃止のご連絡（重要）

これまで名原会ニュースを印刷・発送し、卒業生の皆様に教室の近況をお知らせしてまいりましたが、年々その費用が名原会の財政を逼迫しつつあり、その詳細な状況に関してはすでにご報告している通りです。可能な限り支出を抑えるなどの努力を重ねてまいりましたが抜本的な解決には至らず、また今年に入り新型コロナウイルスによる影響によって印刷・発送作業を実施することが難しくなっております。そのため、大変残念なことではございますが、名原会ニュースの印刷および発送を No. 36 から廃止させていただいております。どうかご了承をいただきますようお願い申し上げます。なお、電子メールでの配信および HP 上での公開は引き続き行ってまいりますので、今後とも名原会の活動に対してご支援、ご協力をいただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

2. 会則変更に伴う会費納入廃止のお知らせ（重要）

令和 3 年度の名原会総会にて会則の変更が承認され、例年の会費納入が廃止されました。今後は入会費 1,000 円を定常的な収入として会を運営してまいります。また、会長と幹事会が必要と認めた際には活動維持協力金の納入をお願いさせていただく場合がございます。その際はどうぞご協力をいただきますようお願い申し上げます。寄付金に関しては引き続き受け付けておりますので、下記の口座までよろしくお願いいたします。

◎ゆうちょ銀行より振り込む場合

加入者名 原子核工学科同窓会
口座番号 00880-8-79447

◎その他の金融機関より振り込む場合

銀行名 : ゆうちょ銀行
金融機関コード : 9900
店番 : 089
預金種目 : 当座
店名 : 〇八九 店（ゼロハチキユウ店）
口座番号 : 0079447

3. 各種証明書の請求について

卒業・修了証明書などの各種証明書をご希望の際は、工学部教務課へ直接ご請求ください。その際には、下記のものを同封してお申し込みください。

- ・証明書発行願

- ・本人確認書類（運転免許証の写しなど）
- ・返信用封筒（宛先記入，切手貼付）

詳しくは工学部のホームページをご覧ください。証明書発行願の書式もホームページからダウンロードできます。

<http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/alumni/certificate.html>

4. 名簿記載内容の変更・訂正

随時，名原会名簿の改訂を行っています。記載事項に訂正のある方は，できるだけ全学同窓会の電子名簿管理システムを通じての変更手続きをお願いします。電子名簿管理システムをご利用いただけない方は，名原会ホームページよりFAXまたは電子メール添付用フォームをダウンロードしてご記入の上，名簿担当までお送りください。 http://www.energy.nagoya-u.ac.jp/association_03

- 名古屋大学卒業生等電子名簿管理システム
<http://www.nagoya-u.ac.jp/for-alumni/index.html>
- 名原会名簿担当者連絡先
担当者： 名古屋大学工学部エネルギー理工学科 遠藤 知弘
メールアドレス： t-endo@energy.nagoya-u.ac.jp
FAX 番号： 052-789-3608

5. 宛名ラベルの提供

宛名ラベルの提供を有償で行っております。ただし，用途は同窓会あるいは学科，研究室に関する活動に限ります。費用につきましては人数等で異なりますのでご相談ください。

6. ニュース掲載記事募集

勤務先や住所変更等，また催し物などについて会員にお知らせしたい方は名原会までご連絡ください。年に1回の発行ではありますが，名原会ニュースに掲載してお知らせいたします。

7. 名原会ホームページ URL 変更のお知らせ

平成29年4月の工学研究科改組に伴い，エネルギー理工学科のホームページが開設されました。これに伴い，名原会ホームページの URL が以下の通りに変更となりました。 <http://www.energy.nagoya-u.ac.jp/association>

8. 個人情報の取扱いについて

名原会会員の個人情報の取扱いに関し，下記の項目をご確認ください。

○登録の個人情報は下記の目的に利用します。

- ・会員名簿への掲載（工学部・工学研究科，全学同窓会の名簿も含む）

- ・本同窓会（工学部・工学研究科，全学同窓会も含む）からの各種通信文書の送付（会誌・同窓会関連行事案内等を含む）
- ・その他，会則に定める事項の遂行に必要と判断された諸事業

○会員名簿作成における個人情報の提供は任意です。

氏名以外で名簿登録を希望されない内容がございましたら，その旨を会誌「名原会ニュース」に記載されている問合せ先までご連絡ください。なお，ご連絡のない場合は，内容に変更ないものとして名簿に登録いたします。

○登録の個人情報は，委託先も含め機密保持には万全を尽くします。また，登録の個人情報は大学・同窓生以外の第三者へは開示いたしません。

○自己情報を照会したい場合は，会誌記載の問合せ先までご連絡ください。ご本人と確認できた場合に限り，開示いたします。

会計報告

2021年度 会計報告

収入

会費	41,571（振込手数料差引済、利子などを含む）
繰り越し	411,294
計	452,865

支出

名原会総会	
案内はがき郵送	102,765
来期繰り越し	350,100
計	452,865

編集後記

少し前まではうだるような暑い日が続いておりましたが，最近は少し涼しくなり，セミの鳴き声も静かになってまいりました。日に日に秋の訪れを感じますが，一方で昔に比べて天気の変り変わりが激しくなったように感じるのは気のせいでしょうか。子供のころは急な雨といえば夕立でしたが，今はスコールのような雨が日中に振ることも珍しくなく，気温30℃は暑いと感じていたはずが，今は少し涼しいと思うくらいになってしまいました。個人の感想にすぎませんが，地球温暖化による気候変動がすでに身近で始まっていることを感じている今日この頃です（9月某日執筆）。

（小川智史）

現役員

会 長 橋本 憲吾	(昭和 55 年卒, 近畿大学原子力研究所, 2022 年 10 月まで)
伊原 一郎	(昭和 59 年卒, 中部電力株式会社, 2022 年 11 月から)
副会長 曾田 一雄	(昭和 52 年卒, 名古屋大学)
有田 裕二	(平成元年卒, 福井大学)
幹 事 瓜谷 章	(昭和 59 年卒, 名古屋大学)
柴田 理尋	(昭和 63 年修卒, 名古屋大学)
柚原 淳司	(平成 3 年卒, 名古屋大学)
小島 康明	(平成 6 年卒, 名古屋大学)
伊藤 高啓	(平成 6 年卒, 中部大学)
杉山 貴彦	(平成 7 年卒, 名古屋大学)
渡邊 将人	(平成 7 年卒, 中部電力株式会社)
渡辺 賢一	(平成 10 年修卒, 九州大学)
富田 英生	(平成 14 年修卒, 名古屋大学)
遠藤 知弘	(平成 14 年卒, 名古屋大学)
平尾 茂一	(平成 15 年卒, 福島大学)
林 裕晃	(平成 17 年修卒, 金沢大学)
小川 智史	(平成 21 年卒, 名古屋大学)

名原会・名原会ニュース・名簿に関する問い合わせ先

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

名古屋大学工学部エネルギー理工学科 名原会

TEL 052-789-5855 (小川智史, 全般)

e-mail s-ogawa@energy.nagoya-u.ac.jp

TEL 052-789-3606 (遠藤知弘, 名簿関係)

e-mail t-endo@energy.nagoya-u.ac.jp

エネルギー理工学科事務室

TEL 052-789-3399 (大石 奈央子)

FAX 052-789-3225

教室ホームページ <http://www.energy.nagoya-u.ac.jp/>

名原会ホームページ <http://www.energy.nagoya-u.ac.jp/association>